

動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。



# 瓦ばん！

平成26年10月1日発行 季刊

発行責任者：根っから地元派 ばん よしはる  
ban-4@ares.eonet.ne.jp

第29号

こんにちは、ばんよしはるです。いかるがの秋が訪れようとしている中で、書いております。

皆様におかれましては、寒暖の差が大きいので、くれぐれも体調管理に努めていただき、秋を満喫してください。

この9月議会で議会決議したことや、役場から報告があったことを報告させていただきます。まず始めに、役場北庁舎を利用して、来年度から民間保育園として事業が行われることが決まりました。現在の町立保育園の定員が飽和状態になってきており、新しく民間保育園を誘致しなければ待機児童を発生しかねない状態になったからです。

このことにより、来年春より町立2か所の保育園と民間保育園での運営になりますのでお申し込みの際には福祉課の方で詳しい説明を受けてください。

一方、3月供用開始になった、いかるがパークウェイの雑草が目立つようになっていることについては、奈良国道事務所と調整を行い、町内ボランティアの方々をお願いをし、年内には活動を開始していただける予定になっております。

平成25年度決算審査では、将来の町財政に不安が考えられるなか、必要なインフラ整備つまり、公共下水道や道路整備等を推進していかなければいけません。そのことを踏まえ、無理のない財政運営を念頭に置いて審議いたしました。

財政上懸案の、国民健康保険事業特別会計では、高齢化に伴う保険給付の増加により、単年度収支は2,151万円の赤字、いままでの赤字を合わせると高額な累積赤字になってしまっています。今後は早急に恒常的な赤字体質を脱却し、単年度収支の黒字化を早急に検討しなければいけません。

つまり。町財政と事業を考えると、将来世代にのしかかる見えない負担をいかに軽減していくのか、いずれ高齢期を向かえる現役世代、将来世代にとっても重要な課題になります。将来にわたって財政を安定させるためには、人口流入を促進し、バランスのとれた年齢構成にすることが理想です。

それを踏まえ、どの事業も実施するには財源が必要であり、限りある財源を優先すべき事業に重点的に予算配分するには、まず、事業に投入される税金の使い道をわかりやすく説明することが求められるはずで。

生活における一番身近な町政がより身近に感じられるための議員活動であることを踏まえ、先送り型対応ではなく20年・30年先の未来のための政策提言をしていくつもりです。

今日より、少しでも明日がよくなる「まち」にするために！  
住民の皆様一人ひとりの想いがまちの未来を変えていきます！



この「瓦ばん！」では町議会議員の毎日の中で感じたこと、活動や思ったことを紹介していきますので、皆様からのご意見・ご感想がありましたら、お知らせ下さい。宜しくお願いいたします。